

正林先生との思い出

井 立 尚

正林先生のお名前を聞くと自然と焼酎を思い出す。

分室（立山）にひょっこりお見えになり、いきなり焼酎（水割り）を飲み始めた姿に私は、「豪放磊落とはまさにこのことだ！」と驚愕したものだ。そんなあの日からもう4年の月日がたとうとしている。

先生は覚えていらっしゃるだろうか。

ある日先生から、自らお書きになった実測図を頂いたことがあった。

頂いた実測図を見て私は、考古学を志して間もないころに読んだ「通論考古学」に載っている実測図を思い出した。

月日の重みを感じたあの日からはもう3年が過ぎた。

またある時は飲み連れに連れて行っていただいたこともあった。

安くて美味しかった焼き鳥の味は今でも忘れることは出来ない。

先生の笑顔と尽きることのない話題が程よいスパイスになったことは言うまでもない。

その後縁遠くなっていることが残念でなりません。

最後になりますが、喜寿を迎えて益々盛んな先生のご活躍を心からお祝い申し上げます。



2002年10月12日 長崎県学芸文化課立山分室閉鎖記念（最前列中央：正林先生）